

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、幹事社質問もワクチンに関連する質問ということでお聞きをしておりますので、その質問をいただいて、それに対して、市長からお答えさせていただくというような形式でやらせていただきたいと思います。それでは幹事社さん、よろしくお願いいたします。

◆日本経済新聞社

幹事社の日本経済新聞社です。第4クールワクチン接種について、今後、規模はどうなっていくのか、以前、ワクチン供給量が減ったというお話がありましたので、そちらについても合わせてお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、お答えいたします。静岡市を含む静岡県全域に緊急事態が発令され、本日で1週間が経ちました。いまだ大変厳しい状況にあります。本日、新型コロナウイルスの感染状況と市民の“いのち”を守るための対策について、ただ今のご質問に即してお答えしたいと思います。スライドをご覧ください。

まず、直近の感染状況です。人口10万人あたりの新規陽性者数が、このところ連日100人を超えてくるなど、収束の気配はまだ見えておりません。

次、お願いします。静岡市のみならず、静岡県内全域でも感染拡大が続いております。病床のひっ迫具合も、このスライドをご覧くださいのとおり、大変厳しい数字になっております。赤枠のところですね。首都圏で起こっているような医療現場の危機が、目下、静岡県にも迫ってきているという状況です。このような状況に全庁を上げて対応するために、1週間前、8月19日に新型コロナウイルス感染症の対策本部会議を開催し、国が示したコロナ対策の3本の柱に即す形で、市としても二つの対策の強化を指示いたしました。その二つとは、一つはワクチンの接種を国や県と連動して加速化していくということ。もう一つは、静岡市でも増加している自宅療養者の“いのち”を守るための、「静岡市方式 新型コロナ在宅ドクターサポート事業」を拡充していくという、二つの方針であります。本日は、その具体策が取りまとまりましたので、皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、ワクチン接種の加速化についてであります。スライドをご覧ください。現況、静岡市のワクチンの接種率は1回目がおよそ40%、2回目が約33%となっております。次のスライドですが、ご存じのとおり、国からのワクチン供給がいったんペースダウンしてしまい、先月21日の会見のときには、接種完了が来年1月末までかかる可能性があるという説明をいたしました。しかしながら、ここにあるとおり、ワクチン供給が加

速されるめどが立ちましたので、静岡市としてもそれに最速で対応を図り、大幅に前倒しして、接種完了に準備を向け、現在進めております。11月上旬までに、12歳以上の市民の方の8割に、2回の接種を完了できるだけのワクチンが供給される見込みですので、医療機関をはじめとする関係各所の皆さんとの引き続きの連携、協力のもと、医療従事者や介助等を確保して、次の第4クール中、11月7日までの完了を目指してまいります。

次のスライドですが、その接種スケジュールの前倒し、見直しによって、接種をお待ちの市民の皆さんの予約の開始、接種の開始について、こちらの表のように対応することといたしました。大きな変更点としては、市民の皆さんからもご要望が寄せられている、妊婦さんとその同居の方、そして、受験を控えている皆さんについて、優先して予約接種をスタートさせていただきます。

妊婦の皆さんについては、コールセンターのみの受付で、9月1日から予約を開始いたします。受験生の皆さんについては、9月4日から予約を開始します。なお、中学、高校3年生以外の受験生の方、予備校等に通っている方については、8月28日から始まる事前申請を行った上で予約をお願いいたします。さらに、静岡モディを会場とする6,000人分の優先枠もご用意できましたので、この分は第4クールよりも先行して、9月8日から接種が可能となります。その他の希望者の皆さんについても、11月7日までに接種していただけますが、その詳細については、改めまして市のLINE公式アカウントや、ホームページ等を通じて順次お知らせいたします。これがワクチン接種の加速化についての内容です。

次にスライド4-1、自宅療養に対する市の支えの部分ではありますが、その具体策である、「静岡市方式 新型コロナ在宅ドクターサポート事業」の拡充について説明いたします。静岡市では幸い、現在のところ、入院が必要な患者さんが入院できないといった事例はありませんが、新規感染者数が大幅に8月になって増えております。243名ですね。首都圏では、自宅療養中に病態が急変をして、お亡くなりになるといった事例が相次いで発生しており、市民の皆さんも自宅療養に対する不安を感じていらっしゃるかと存じます。そこで、静岡市では静岡、清水両医師会の皆さんと共に、「静岡市方式 新型コロナ在宅ドクターサポート事業」、これを全国に先駆けて、すでに今年の3月からスタートしておりますので、自宅療養者のフォローアップを、医療機関の皆さんに担っていただくことで、自宅療養中の不安を軽減したり、必要な治療を迅速に行ったりできる体制を、現状の自宅療養者の増加を受けて、8月20日から、さらにサービスを拡充いたしました。そのポイントは三つあります。

次のスライドをご覧ください。一つ目は、対象者の拡大であります。これまでは、重傷化リスクのある自宅療養者とその同居の家族に、対象が限定されておりましたが、今後は、希望される方全てにサポートを受けていただけるようにいたしました。二つ目は、事業フローの見直しにより、サポート開始のスピードアップと、保健所の負担軽減を図

りました。これまで、保健所がコーディネーターとなって、保健所を介して、患者さんと医療機関のマッチングを行っておりました。今後は、患者さんを診察した医療機関の先生方に、直接、患者さんの意向を確認していただくことによって、よりスピーディーに、スムーズにサポートが始められるようにしました。このことによって、患者さんは早くそのサポートを受けられますし、また、最前線の保健所の職員の業務の負荷を軽減することにもつながり、この業務の負担軽減も図ってまいりたいと思っています。さらに、ご協力いただく医療機関へのフォローアップ単価の増額や、往診外来診療費への加算も図って、より多くの機関、先生方に、気持ちよく協力いただけるような体制を強化していきます。

この事業をはじめ、自宅療養者の抗体カクテル療法、これは、国のほうも8月25日、一昨日、厚労省から通知が来ましたが、これまで入院しないとできなかったこの抗体カクテル療法ですが、外来の対応も可能となったということでもありますので、これにも即応いたしまして、静岡市ではこの通知を受け取る前から、医療機関、清水、静岡両医師会と保健所が協議を進めてきておりましたが、速やかに、今後、その実現に向けた調整を行い、自宅療養者であっても安心安全な療養環境を確保できるよう、医療機関の皆さんと協力して、より手厚くサポートしていきたいと思えます。

最後のスライドをお願いします。これが、私たちが二つの方針の下で用意した施策であります。いずれにせよ、この危機を市民の皆さんと共に乗り切っていくためには、改めて市民の皆さまに、より強くお願いをしなければなりません。静岡市役所としては、ワクチン接種の加速化、自宅療養者のサポート強化に全力を尽くしてまいります。感染防止には、市民の皆さん一人一人の協力が不可欠であります。不要不急の外出を控えていただくとか、今まで以上のレベルで、感染防止を意識した行動を取っていただきますようお願いいたします。特に、夏休みが終わり、学校が再開いたします。各学校では、感染対策をより一層徹底してまいりますので、ご家庭でも、お子さま方の感染予防や健康観察に、一層の注意を払っていただくようお願いいたします。

一方、事業者の皆さん方にも、引き続き感染拡大の防止、人流の抑制にご協力をお願いいたします。静岡市は市民と一丸となって、緊急事態宣言が切れる9月12日までに、なんとしても感染を抑えていきたいと願っております。市民の皆さんの最大限のご協力を重ねてお願いいたします。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けしたいと思えます。静岡新聞さん、お願いいたします

◆静岡新聞

静岡新聞です。ワクチン接種の妊婦と受験生の優先接種について伺います。1点目が、

妊婦の方というのは、例えば里帰りとかもあると思うのですけれども、何かこういう方が対象、例えば、市から母子手帳を受けたとかですね、その辺の対象については、お願いします。

◆市長

なるべく大きく対象を受け止めたいと思っております。実務的には、今から保健福祉長寿局長に答えていただきますが、これ、県内でもすでに藤枝市や島田市、湖西市や掛川市でも行われております。人口規模の大きい静岡市も、なるべく小回りが利く臨機応変な対応をしたいということで、この1週間、ここのところ、70万人の規模の中の妊婦さんに、しっかり安心感を提供していきたいというふうに、この施策に踏み切ったわけがあります。保健福祉長寿局長、お願いいたします。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長、杉山でございます。よろしく申し上げます。今、ご質問ありました妊婦さんの対象のところですが、母子手帳を交付された方が対象になろうかなと思います。それと、里帰りで静岡市のほうにお戻りになっている方も対象とさせていただきたいというふうに思います。合わせて、そこの同居されているご家族の方についても対象とさせていただければ、より安全かなというふうに思っておりますので、そのような対応をさせていただきたいというふうに思っております。

◆静岡新聞

関連ですいません。この上のところに、妊婦とその同居の方、受験生の優先接種枠6,000人分を用意とあるのですが、これ、想定人数を見ると、0.7万人と1万人で17,000人ですかね。そうすると、その辺の、やはり結構殺到しちゃうのかなという心配もあるんですが、その辺りは。

◆保健福祉長寿局長

そうですね、会場としては静岡モディのほうに、まずはその6,000人の方々が受ける体制を整えさせていただきました。当然、それを上回るご希望の方がいらっしゃいますので、申し訳ございませんが、普通の第4クールが間もなく始まりますので、そちらのほうでも先に予約ができるような体制を取りながら、そちらのほうで打っていただくというふうなことで、二段構えといいますか、そういうことで考えております。

◆静岡新聞

何度もすいません。そうすると、妊婦の方が9月1日から予約開始で、受験生より先だと思うのですが、その6,000人の枠というのは、妊婦さんとその同居の方と、あと受験

生もいて、受験生が始まる前に、そこで埋まっちゃう可能性もあるということですか。

◆保健福祉長寿局長

ある程度、コールセンターのほうで、妊婦さんの場合、予約を取らせていただきますので、受験生の方も対応ができるような幅で、枠を検討していきたいというふうに考えております。

◆司会

その他いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いします。

◆第一テレビ

第一テレビです。抗体カクテル療法についてお伺いしたいのですけれども、これ、医師会さんと事前にもう調整を進めていたということだったのですが、もう地域の診療所などで受けられるイメージなのでしょうか。あと、いつごろ開始できる見込みなのか、そのあたりも教えてください。

◆市長

これが目下目下調整中ではありますが、例えば、これは局長に答えてもらったほうが正確ですね。

◆保健福祉長寿局長

抗体カクテル療法についてですけれども、基本的には、一般的には入院をされると、この前、25日、通知が出て、外来でも対応可能だということになりましたので、医療機関、総合病院のほうで、抗体カクテル療法を受けていただくということになります。地域の開業医の先生方のところで症状が確認された場合は、病院のほうに連絡を取っていただきながら、そこで治療を受けていただくというふうな流れになるというところでございます。

◆第一テレビ

開始の時期はまだ分からないのでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

準備が整い次第、すぐにもう実施できるようにということで、もうこの通知が出る前から、医療機関、それから医師会の先生方、ご協議いただきながら進めておりますので、すぐに対応できる状況をつくりたいということで、今やっております。

◆司会

その他いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。県のほうで、入院待機ステーションをつくる方針ということですがけれども、静岡市でも、県内一、二を争う感染者とか利用者がある中で、独自に入院待機ステーションのようなものをつくる検討というのはあるのでしょうか。

◆市長

これも局長から答えてください。医師会からもそんな要望はもらっておるのですけれども、県と市の連携も必要かと思いますので、局長お願いします。

◆保健福祉長寿局長

現状として、市単独で設置ということではなく、そこは役割分担ということで、県と連携し、協議しながら設置していくと、あるいは、県の整備がどのような形で進んでいくのか、情報を共有させていただきたいなというふうに思っております。

◆司会

その他いかがでしょうか。では発表項目につきましては、以上ということでもよろしいでしょうか。それでは、その他のご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします

◆中日新聞

中日新聞です。1点だけ、夏休みの延長を検討されたかと思うのですが、夏休みを延長した市町もある中で、静岡市が延長しなかった理由というのは、どういうところにあるのでしょうか。

◆市長

そうですね。重要な質問だろうと思います。やはり家庭の形態は千差万別でありますので、義務教育機関でありますので、どんなご家庭のお子さんにも、やはり居場所の確保というのが必要であります。また、学びを止めないということも、これから学年末に向けて大事なことであります。つまり、学校は三つ、「学習機会と学力を保障する」「児童生徒の発達、成長を保障する」そして、「居場所セーフティーネットとして身体的、精神的な健康を保障する」という、この三つの役割を担っておるのはご承知のとおりです。このため、緊急事態宣言下においては、感染症対策をより強化して、子どもたちが安全かつ安心して学校生活を送ることができるように十分に配慮しながら、教育活動を継続し

てまいります。学校の教職員の皆さんについても、本市ではすでにワクチンの優先接種を進めており、希望する教職員の約9割が2回接種済みでありますので、子どもたちを受け入れる準備が整っております。したがって、一斉に夏休みを延長することはせず、各学校の計画通りに学校をスタートしていただきます。家庭での感染に関する不安については、児童生徒が安心して登校できるよう、保護者の皆さんに対し、積極的な情報発信に努めてまいります。市内一斉の臨時休業については、学習機会と学力を保障するため、これを実施いたしません。児童生徒や教職員に感染者が確認された場合は、教育委員会として、該当校の状況を丁寧に把握して、臨時休業の範囲や期間を判断していくなど、該当校と連携して対応に当たっていき、子どもたちが再び安心して登校できる環境を整えるべく、連携してまいります。同時に、オンライン授業を実施することなどによって、家庭でも学習できる環境も整え、子どもの健やかな学びを保障してまいります。静岡市はこんな対応でやっていきたいと考えております。ご理解をお願いいたします。

◆中日新聞

分かりました。あと1点、全然別の話で、自動車事故を起こして報酬が差し押さえになった山本市議について、市長も以前、「逃げ隠れをせず説明を」という話もされていたかと思うのですが、本人、コメントを出して、記者会見など公の場で説明はされていないと思うのですが、それについて、対応は十分だとお考えですか。

◆市長

先日、私が呼び掛けましたが、その後、自民党清水支部の会合に出席されて、囲みの取材の形ではあったかと報告を受けておりますけれど、記者の皆さんに思いの一端を伝えたというふうに伺っております。これからは今回の自分自身の行動を反省し、そして支持をしていただいた皆さんをはじめとする、市民の皆さんの信頼を回復するべく、一生懸命議員活動をしていってほしいなと願っております。

◆中日新聞

処分についても、自民党の清水支部が処分を決めて、市議会、市議の会派でも処分を決めたと思うのですが、その後、議会全体としても処分を必要だという声も一部の会派から出ているのですが、そのことについてはどういうふうに、十分だと考えていますか。

◆市長

もうそれは議会の議論に任せたいと思います。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で本日の定例記者会見を

終了させていただきます。次回は9月2日、木曜日、午前11時からとなります。本日はありがとうございました。

◆市長

ありがとうございました。